



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年10月31日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 平成29年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	80,266	△1.0	4,349	73.0	5,244	54.0	3,570	69.6
29年3月期第2四半期	81,091	△1.7	2,514	△6.2	3,406	△0.8	2,105	7.3

（注）包括利益 30年3月期第2四半期 6,043百万円（551.1%） 29年3月期第2四半期 928百万円（△65.1%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	66.81	66.81
29年3月期第2四半期	38.06	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	192,328	147,083	76.3
29年3月期	190,116	142,108	74.5

（参考）自己資本 30年3月期第2四半期 146,715百万円 29年3月期 141,724百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	20.00	—	—	—
30年3月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,600	1.1	7,000	15.3	8,400	11.2	5,700	32.0	106.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	55,194,823株	29年3月期	55,194,823株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	1,749,847株	29年3月期	1,749,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	53,445,236株	29年3月期2Q	55,331,121株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年9月30日、以下「当第2四半期」）の我が国経済は、好調な企業収益を背景にして、雇用情勢、所得環境は改善傾向にあり、総じて緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国政治運営の不安定さや地政学的リスクの高まり等により、先行きの不透明感は一層増しております。

そのような環境の中、「中期経営方針2015」最終年度を迎えている当社は、業績を回復させ再び成長軌道に乗せるための施策実行に注力しております。クリーン・ケアグループでは、お客様との接点強化の各種取り組み、有職主婦・高齢世帯の増加に対応して簡単・効率的な掃除方法の提案とニーズが高まる役務提供サービスの強化等に取り組み、フードグループにおいては、「いいことあるぞ Mister Donut」のブランドスローガンの下でミスタードーナツブランド再構築とその他フード事業の育成に注力しております。

当第2四半期の業績は、クリーン・ケアグループは増収となったものの、ミスタードーナツの売上高が減少したことでフードグループは減収となり、連結売上高は前年同期から8億24百万円（1.0%）減少し802億66百万円となりました。一方利益面につきましては、減収影響はあったものの、レンタル製品投入の減少等により売上原価が減少したことに加え、退職給付費用、販売促進費等の経費も減少したことで増益となり、連結営業利益は前年同期から18億35百万円（73.0%）増加し43億49百万円、連結経常利益は18億38百万円（54.0%）増加し52億44百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から14億64百万円（69.6%）増加し35億70百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成30年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	81,091	80,266	△824	△1.0
連結営業利益	2,514	4,349	1,835	73.0
連結経常利益	3,406	5,244	1,838	54.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,105	3,570	1,464	69.6

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成30年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	55,629	56,278	649	1.2
フードグループ	20,290	18,340	△1,949	△9.6
その他	6,715	7,138	422	6.3
小計	82,636	81,758	△877	△1.1
セグメント間取引消去	△1,545	△1,492	53	—
連結売上高	81,091	80,266	△824	△1.0

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益又は営業損失（△）

(単位：百万円)

	前第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成30年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	6,360	7,439	1,078	17.0
フードグループ	△565	211	777	—
その他	143	167	24	17.0
小計	5,937	7,818	1,880	31.7
セグメント間取引消去 及び全社費用	△3,423	△3,468	△45	—
連結営業利益	2,514	4,349	1,835	73.0

※各セグメントの営業利益又は営業損失には、セグメント間の取引を含んでおります。

①クリーン・ケアグループ

クリーン・ケアグループの売上高は、前年同期から6億49百万円（1.2%）増加し562億78百万円となりました。利益面につきましても、増収に伴う粗利の増加に加え、スタイルクリーナー等レンタル製品投入減少等による売上原価の減少及び販売促進費の使用時期の変更等による経費の減少により、営業利益は前年同期に比べ10億78百万円（17.0%）増加し74億39百万円となりました。

家庭向けダストコントロール商品の売上高は、レンジフードフィルター等、売上が減少した商品もありましたが、販売に注力している「おそうじベーシック3」（フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、スタイルクリーナー」のセット商品）の売上増加、顧客接点獲得のため積極販売している台所用スポンジ売上の寄与に加え、当期初から全国でのレンタルを開始した「ロボットクリーナーSiRo」も寄与し、全体では前年同期の売上高を上回りました。

事業所向けダストコントロール商品につきましては、今年1月よりレンタルを開始した「空間清浄機クリア空感中型」の寄与があったものの、「ウォーターサーバー」本体売上の減少や化粧品関連商品の減少に加えて、主力であるマット商品が前年同期並みとなったこと等により、全体では前年同期並みの売上高となりました。屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」は、当社独自の高い機能性から引き続き順調に推移しました。

役務提供サービスにつきましては、「ホームリペア（壁や床の補修サービス）」を当期より本格導入した他、「サービスマスター（プロのお掃除サービス）」「メリーメイド（家事代行サービス）」等の既存サービスが依然堅調に推移し、お客様売上が増加した結果ロイヤルティ収入が増加しました。更には、サービス時に使用する資器材等のフランチャイズ加盟店向け売上も増加し、役務提供サービス全体の売上高は前年同期を上回る結果となりました。

また、クリーン・ケアグループのその他の事業につきましては、顧客数の増加等によりユニフォーム関連事業が増収となったことに加え、引き続きレントオール事業（日用品・イベント用品等のレンタル）、ホームインस्टテッド事業（高齢者向け生活支援サービス）、化粧品関連事業も順調に推移しました。

②フードグループ

フードグループの売上高は、ミスタードーナツのお客様売上減少を主因に、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料売上共に減少した結果、前年同期から19億49百万円（9.6%）減少し183億40百万円となりました。前年同期は損失計上となった利益面につきましては、減収に伴う粗利の減少があったものの、配送費等の経費減少の結果、前年同期から7億77百万円増加し、2億11百万円の営業利益を計上しました。（前年同期は5億65百万円の営業損失）

フードグループの主力であるミスタードーナツは、“最高水準の素材と技術”を持つ企業との共同開発に取り組み、「misdo meets」と銘打ち、より魅力のある商品を提供することに注力しました。4月の宇治茶専門店祇園辻利、人気ラーメン店ソラノイロ、6月のハウス食品株式会社との共同開発に続いて、8月には、健康総合企業として知られる株式会社タニタと健康をイメージできる素材である“野菜”を使用したドーナツ「ベジポップ」を共同開発、9月には祇園辻利、ソラノイロとの共同開発第2弾として「ホット抹茶オレ 豆乳ホイップ」「きのこ味わう白湯麺」等を発売しました。また、来店誘因につながる他企業とのタイアップ企画にも引き続き積極的に取り組み、KDDI株式会社「三太郎の日」キャンペーンに参加した8月のお客様売上は前年同期を大きく上回りました。しかしながら、不採算店舗のクローズに伴う稼働店舗数の減少影響が大きく、第2四半期の全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。なお、前期から当期第1四半期にかけて出店・改装した新しいタイプの店舗は概ね順調に推移しました。

その他のフード事業につきましては、店舗数が増加したとんかつレストラン「かつアンドかつ」が増収、アイスクリーム製造の連結子会社蜂屋乳業株式会社も委託元からの受注増加により順調に推移しておりますが、「カフェデュモンド」は店舗数の減少により減収、パイ専門店「パイフェイス」、シフォンケーキ専門店「ザ・シフォン&スプーン」、大型ベーカリーショップ「ベーカリーファクトリー」も減収となり、更にはどんぶり専門店「ザ・どん」等を展開していた連結子会社株式会社どんの全株式を前期中に株式会社フジオフードシステムに譲渡した影響もあって、その他のフード事業の売上高は前年同期を下回りました。なお、8月に関西初出店したパイフェイス4号店（エキマルシェ大阪ショップ）は順調な滑り出しとなっております。

③その他

その他の売上高は、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社は、大口顧客の契約が再リースとなったこと等で減収、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは、顧客数の増加により増収となりました。海外につきましては、中国（上海）でミスタードーナツを展開する美仕唐納滋（上海）食品有限公司が減収となったものの、楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）がペーパータオルの取扱量増加により増収となったことに加えて、前期子会社化したBig Appleグループ（マレーシア最大のドーナツチェーン）の売上が計上されたこと等で海外全体では増収となりました。その結果、その他全体の売上高は前年同期から4億22百万円（6.3%）増加し71億38百万円となりました。営業利益につきましては、ダスキン共益株式会社が減収に伴い減益、株式会社ダスキンヘルスケアは人員募集経費等の増加により減益となったものの、海外事業における営業損失が減少したこと等により、その他全体の営業利益は前年同期から24百万円（17.0%）増加し1億67百万円となりました。

なお海外お客様売上は、クリーン・ケアにつきましては、台湾、中国（上海）は前年同期を上回りましたが、韓国は前年同期を下回り、ミスタードーナツにつきましては、台湾、タイ、インドネシアは順調に推移しておりますが、中国（上海）、フィリピン、マレーシアは減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,923億28百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して22億11百万円増加しております。その要因は、投資有価証券が32億13百万円、有価証券が18億90百万円増加したことに対し、現金及び預金が20億18百万円、繰延税金資産（固定）が10億5百万円減少したこと等であります。

負債残高は452億44百万円となり、前期末と比較して27億63百万円減少しております。その要因は、未払金が14億86百万円、未払法人税等が9億36百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,470億83百万円となり、前期末と比較して49億74百万円増加しております。その要因は、利益剰余金が25億1百万円、その他有価証券評価差額金が22億72百万円増加したこと等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）通期の業績予想は以下のとおりであります。平成29年10月12日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表し、それ以降変更はありません。

[連結]

(単位：百万円、%)

	平成30年3月期（予想）			平成29年3月期（実績）	
		百分比	前期比		百分比
売上高	163,600	100.0	1.1	161,880	100.0
営業利益	7,000	4.3	15.3	6,069	3.7
経常利益	8,400	5.1	11.2	7,554	4.7
親会社株主に帰属する当期純利益	5,700	3.5	32.0	4,318	2.7

[個別]

(単位：百万円、%)

	平成30年3月期（予想）			平成29年3月期（実績）	
		百分比	前期比		百分比
売上高	135,300	100.0	0.8	134,245	100.0
営業利益	4,600	3.4	13.0	4,069	3.0
経常利益	7,100	5.2	9.6	6,478	4.8
当期純利益	4,800	3.5	28.9	3,723	2.8

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,200	19,181
受取手形及び売掛金	9,887	9,768
リース債権及びリース投資資産	1,359	1,400
有価証券	16,018	17,909
商品及び製品	7,388	7,520
仕掛品	157	189
原材料及び貯蔵品	1,557	1,607
繰延税金資産	1,719	1,506
その他	2,766	3,714
貸倒引当金	△34	△37
流動資産合計	62,021	62,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,157	44,109
減価償却累計額	△26,388	△26,474
建物及び構築物（純額）	17,769	17,635
機械装置及び運搬具	24,880	25,132
減価償却累計額	△18,134	△18,382
機械装置及び運搬具（純額）	6,745	6,749
土地	23,628	23,517
建設仮勘定	241	75
その他	11,903	12,316
減価償却累計額	△8,955	△9,366
その他（純額）	2,948	2,950
有形固定資産合計	51,334	50,928
無形固定資産		
のれん	793	710
その他	6,825	6,764
無形固定資産合計	7,618	7,474
投資その他の資産		
投資有価証券	58,979	62,192
長期貸付金	5	4
繰延税金資産	2,263	1,258
差入保証金	6,304	6,168
その他	1,616	1,564
貸倒引当金	△27	△24
投資その他の資産合計	69,142	71,164
固定資産合計	128,095	129,567
資産合計	190,116	192,328

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,836	6,884
短期借入金	78	164
1年内返済予定の長期借入金	10	5
未払法人税等	2,337	1,400
賞与引当金	3,255	2,972
資産除去債務	12	40
未払金	7,583	6,096
レンタル品預り保証金	9,421	9,315
その他	5,069	4,590
流動負債合計	34,603	31,469
固定負債		
退職給付に係る負債	11,901	12,371
資産除去債務	616	599
長期預り保証金	812	776
長期未払金	74	23
その他	0	2
固定負債合計	13,403	13,774
負債合計	48,007	45,244
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,086	11,086
利益剰余金	117,332	119,834
自己株式	△3,568	△3,570
株主資本合計	136,203	138,703
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,754	10,027
繰延ヘッジ損益	—	6
為替換算調整勘定	△120	△127
退職給付に係る調整累計額	△2,113	△1,894
その他の包括利益累計額合計	5,521	8,011
新株予約権	—	3
非支配株主持分	384	365
純資産合計	142,108	147,083
負債純資産合計	190,116	192,328

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	81,091	80,266
売上原価	44,876	44,006
売上総利益	36,214	36,259
販売費及び一般管理費	33,699	31,909
営業利益	2,514	4,349
営業外収益		
受取利息	213	181
受取配当金	158	163
設備賃貸料	75	75
受取手数料	122	105
持分法による投資利益	100	149
雑収入	407	327
営業外収益合計	1,077	1,003
営業外費用		
支払利息	0	2
為替差損	56	—
設備賃貸費用	28	26
支払補償費	26	24
雑損失	74	54
営業外費用合計	186	108
経常利益	3,406	5,244
特別利益		
固定資産売却益	0	2
投資有価証券清算益	114	—
その他	0	0
特別利益合計	115	3
特別損失		
固定資産売却損	15	89
固定資産廃棄損	49	73
減損損失	67	24
災害による損失	153	0
その他	1	0
特別損失合計	286	188
税金等調整前四半期純利益	3,234	5,059
法人税等	1,141	1,506
四半期純利益	2,093	3,553
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△12	△17
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,105	3,570

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	2,093	3,553
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,381	2,272
繰延ヘッジ損益	0	6
為替換算調整勘定	△171	△24
退職給付に係る調整額	530	211
持分法適用会社に対する持分相当額	△143	23
その他の包括利益合計	△1,165	2,490
四半期包括利益	928	6,043
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	997	6,061
非支配株主に係る四半期包括利益	△68	△17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,221	20,285	5,584	81,091	—	81,091
セグメント間の内部売上高 又は振替高	408	5	1,131	1,545	△1,545	—
計	55,629	20,290	6,715	82,636	△1,545	81,091
セグメント利益又は損失(△)	6,360	△565	143	5,937	△3,423	2,514

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,423百万円には、セグメント間取引消去33百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,456百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に142百万円、株式会社ダスキン鹿児島に145百万円のものれんが当第2四半期連結累計期間で発生しております。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	93	5	—	—	99
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	534	45	—	—	580

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したものれん残高534百万円(クリーン・ケアグループ)、45百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,899	18,335	6,032	80,266	—	80,266
セグメント間の内部売上高 又は振替高	379	5	1,106	1,492	△1,492	—
計	56,278	18,340	7,138	81,758	△1,492	80,266
セグメント利益又は損失(△)	7,439	211	167	7,818	△3,468	4,349

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,468百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,501百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	87	—	10	—	98
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	506	—	204	—	710

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高506百万円(クリーン・ケアグループ)、平成29年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高204百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。